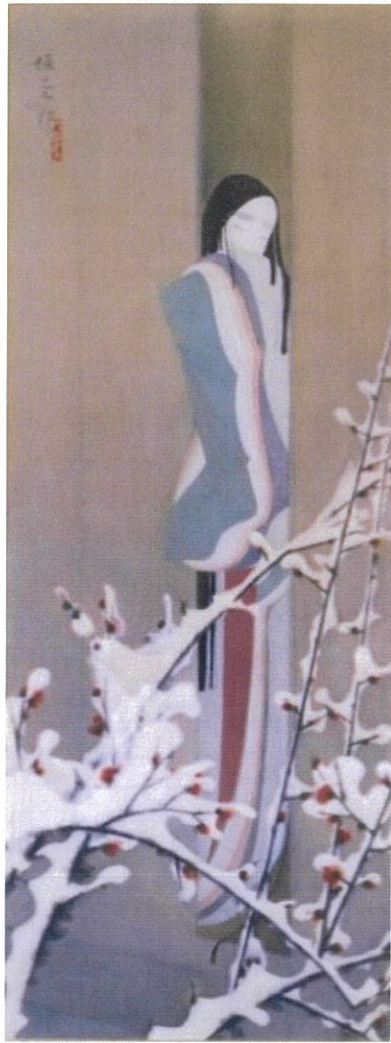


御簾（みす）の隙から、雪化粧の梅花を眺める美女。日本画の大家・北野恒富による、王朝趣味溢れる美人画の佳作。北野は「盲目物語」をはじめ、谷崎作品の装丁・挿絵に数多く携わった。軸に仕立てた表装には、谷崎の妻松子の着物が使われている。



北野恒富「雪の朝」

春の特別展

展示作品から



棟方志功「菜果図」

色とりどりの野菜や果物が、からだを揺すって笑い出す。谷崎が晩年可愛がっていた親縁の少女に贈った、珠玉の彩色画。

赤、橙々、黄、緑、青、紫・・・。

色彩のリズミカルな鼓動に宿る、透明でありながら奥深い光— 故郷青森の「ねぶた」の山車（だし）の輝きにも似た、棟方志功独特の色彩感が眩しい。



俵屋宗達「源氏物語屏風切」

源氏物語五十四帖の各場面が描き込まれていた屏風から切り取り、画軸に仕立てたので「屏風切」という。俵屋宗達による大和絵の名品。高価な顔料の緑青や金泥を贅沢に使い、「須磨」の一場面を描く。

源氏物語口語訳を執筆していた谷崎の書齋に掛けられていた。

延期となりましては
4月12日のイベントは



春の特別展開連講座
学芸員が語る春の特別展

「潤一郎の美術展」

～文豪ゆかりの「美」に浸る～

4月12日（日）午後2時～3時

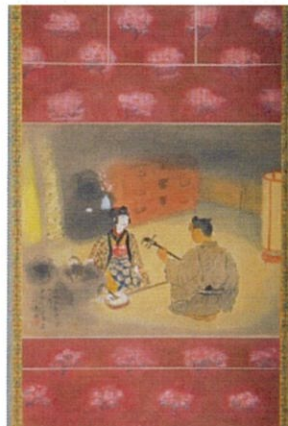
場 所：当館講義室

定 員：40名（要予約）

持ち物：筆記用具

入館料のみで受講いただけます。

谷崎ゆかりの名画・名品を、数多く贅沢に展示する春の特別展。見どころや作品のあれこれを、学芸員がわかりやすく解説します。



和田三造「春琴抄」



同時開催 ロビーパネル展

「文豪の顔 ～陰翳の肖像～」

5月8日（金）～6月7日（日）

入館料のみで観覧いただけます。

写真を撮ることも、撮られることも好きだった谷崎潤一郎。79年にわたる人生、「文豪の顔」に浮かび上がる光と陰は何を語る？



文壇デビュー頃の谷崎

芦屋市谷崎潤一郎記念館 〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12の15

TEL0797 (23) 5852 FAX0797 (38) 3244

メール：ashiya-tanizakikan@shopro.co.jp ホームページ <https://www.tanizakikan.com>